

令和6年度 国際会議助成募集要項

公益財団法人 前田記念工学振興財団

1. 趣旨

我が国で開催される学術的な国際会議(研究集会・シンポジウム及びセミナー等を含む)の開催に要する経費の助成を行い、学術の国際交流に寄与しようとするものです。

2. 助成の対象とする分野

令和6(2023)年4月1日から令和7(2024)年3月31日迄の間にわが国で開催するもので、次の3つの分野に関する、またはそれらの複数分野に共通する会議を助成の対象とします。

- (1)土木分野
- (2)建築分野
- (3)i-construction 分野 (本分野の技術範囲等は、下段「9. 新分野の設置」を参照)

3. 助成予定件数

3分野(含む共通分野)あわせて4件程度 1件あたり100万円以下

4. 対象となる経費

- (1)招待講演者の講演謝金及び旅費
- (2)会議開催に直接必要な会場使用料、印刷費等

5. 助成金の交付

助成金は、原則として令和6年7月に交付することを原則としますが、必要の場合は事前にお知らせください。令和6年4月以降に交付します。

6. 応募方法

(1)助成申請用紙

- ①当財団所定用紙(Word)をホームページの研究助成サイト(<https://www.maedakksz.or.jp/kokusai/>)よりダウンロードしてご使用ください。
- ②添付申請用紙の枚数をできるだけ守ってください。
- ③所定用紙(Wordファイル)への入力完了したら、PDFを作成し、後述の電子申請システムより両方をアップロードしてください。PDFにはパスワードやセキュリティ設定を行わないでください。また、ファイルの容量は5MB以内をお願いします。

※ファイル名作成ルール:ファイル名は、「国際会議申請書_会議名(略称).pdf」で作成してください。

例1) 国際会議申請書_APEC 国際交流.pdf 例2) 国際会議申請書_CPS2024.pdf

(2)応募方法

申請は、ホームページの研究助成サイトから電子申請システム(Graain)で提出ください。

所定用紙のPDFを正とし、作成された際のWordファイルおよび開催趣意書・開催案内その他参考となる資料(PDF等)も提出願います。詳しくは、「操作マニュアル・13ページ」及び電子申請システム(Graain)のWEB画面説明文の指示に従って入力・提出をお願いします。

(3)募集期間

令和5年8月21日(月)～令和5年11月2日(木)12:00到着分(システム登録完了)まで
(財団事務所への応募書類の持参は、お断りします。)

7. 審査及び助成の決定

下記の委員(五十音順)によって構成される選考委員会において審査し、理事会が決定します。
なお、採否は令和6年3月末日までにご連絡いたします。

委員	石橋 忠良	東日本旅客鉄道(株)構造技術センター顧問
委員	加藤 信介	東京大学名誉教授
委員	壁谷澤寿海	東京大学名誉教授
委員	神田 順	東京大学名誉教授
委員	橘高 義典	東京都立大学教授
委員	小泉 淳	早稲田大学名誉教授
委員	陣内 秀信	法政大学名誉教授
委員	玉井 信行	東京大学名誉教授
委員	登坂 宣好	(株)Material speaks iT-Lab 代表
委員	長瀧 重義	東京工業大学名誉教授
委員	難波 和彦	一級建築士事務所(株)難波和彦・界工作舎代表
委員	花木 啓祐	東洋大学情報連携学部教授
委員	前川 宏一	東京大学名誉教授、横浜国立大学客員教授
委員	野城 智也	高知工科大学システム工学群教授
委員	矢吹 信喜	大阪大学大学院工学研究科教授

8. 報告書等の提出

会議終了後に、会議開催状況報告(簡易なもので結構です)及び本会議に関し作成された講演集等の印刷物(PDFでも結構です)を提出していただきます。

9. 新分野の設置(令和3年度より)

従来の土木・建築分野である意匠、構造、材料、土質、設備、施工、歴史、都市計画といった技術分野に加え、昨今目覚ましく進歩しているロボット・機械技術、AIなどの情報技術や5Gといった通信技術などを土木、建築分野の技術と融合させることで工期短縮、少人化、生産性・安全性の向上、コストダウン、機能向上など多くのメリットを生み出すことが可能となってきています。そこで土木・建築など社会インフラのライフサイクルに寄与する、ロボット化・機械化技術、情報技術、通信技術を活用した技術分野として「i-construction分野」を新しく追加しました。

「i-construction分野」の技術範囲

社会インフラや建築物の計画、設計、施工、保守管理、運用に至る全てのライフサイクルを対象とした、建設業の高度化・高信頼化、および国土・地域・都市・建築にかかわるイノベーションに寄与する情報通信技術を活用した建設技術を対象範囲とします。

具体的技術の例

- ① 計 画 : プロジェクト計画、プロジェクトシミュレーション、等
- ② 設 計 : 計画ツール、VR・AR・MR・SR、BIM/CIM等
- ③ 施 工 : 施工計画・管理、センシング・モニタリング、自動化・ロボット化・機械化、
パワーアシスト、UAV、CPS、5G、等
- ④ 保守・運用 : プロジェクト情報管理、施設維持運用管理、FM、等
- ⑤ インフラ・建築DX : スマートシティ、Society5.0、スマートエネルギーマネジメント、等

10. 当財団の住所・Eメールアドレス・ホームページ等

住所 〒102-0073 東京都千代田区九段北4丁目3-1 一口坂中央ビル
公益財団法人 前田記念工学振興財団・事務局
電話 03-3222-6481 E-mail kinen.zaidan@jcity.maeda.co.jp
URL <https://www.maedakksz.or.jp>

以 上